５年生　安全科

ネットワーク社会を生き抜く　～その投稿は大丈夫？～

１．学年　　第５学年

２．授業づくりの視点

本授業における学習内容の主張

安全の授業で大切にしていることは、自分で自分の命を守ることを感じさせる、つまり命について感じさせる場面を設定すること。そして、子供たちのもっているイメージを崩すことで、思考を働かせ、深い学びにつなげるということである。ＳＮＳは利用することで効率的かつ効果的に情報発信ができ、今後もますます発展していくだろう。子供たちがそのような社会を安全に過ごしていけるようにするのは、大人の重大な責務である。

本授業における ICT 活用についての主張

本授業では、情報発信に対する価値観をレーダーチャートに打ち込み、それらを共有しながら思考させていく。その際、「今、仲間はどんなことを考えているのか。」「自分の今の状況は。」と活動の変化ごとにオーバーラップさせて確かめていく時間を大切にすることで、学びを深めていきたい。テレビ画面に全員分のレーダーチャートを映し、話し合うときにも、相手意識をもって話し合いをすることが期待できる。

教材について

第７期中央教育審議会において安全教育については次のようにまとめられている。『安全教育については、各学校において確実に実施されることが重要であり、研究開発学校などにおける実践の状況も踏まえつつ（以下略)』とある。昨年度、新たに策定した１５時間の安全教育カリキュラムを確実に実施し、その指導方法、教材、安全教育の評価などを広く発信することが附属池田小学校の使命であると考える。新学習指導要領で重要となる「何を知っているか」から「何ができるようになるか」への移行は、まさに安全教育を受けた子供たちが、自らの命は自ら守る自助能力をより高めることで、そのねらいにせまれるのである。情報発信ができるＳＮＳアプリは、１０代の子供たちにとってかなり身近なものになっている。スマホ保有率がこれからどんどん高まるなか、思春期をむかえ自己顕示欲が高まることも相互的に考えると、その利用の仕方について考えさせることができる教材である。ルールだからではなく、自分自身の価値観を照らし合わせながら、安全な利用方法を考えさせることが大切である。

児童について

資料･データの提示を多くおこなってきたために、そのデータから読み取れること、その背景などを考えようとする主体的な姿を見せる児童は多い。安全の授業に限らず、ふりかえりを文章化させている。学んだことを自分の言葉でまとめて書くことができる。

児童のこれまでの ICT の活用について

○教室据え置きの TOSHIBA タブレットを利用することが多い。授業における学びを写真撮影や文章記述・自己評価を行い、クラウド上に残している。（まなふりくん）授業だけでなく、自宅で仲間のコメントに返信したりすることもある。

３．単元の目標

インターネットの使用方法を振り返ることで、受信者と発信者としての正しい判断をすることができ、個人情報を発信するときの危険性を知ることができる。

４．評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な場面でのＳＮＳ利用の危険について知ることができる。	ＳＮＳの利用に際して安全に利用する方法を考えることができる。	自分の行動を分析し、ＳＮＳを安全に利用する意識を持つ。

５．単元計画

次	時	内容	主に使用した ICT
１	１	情報セキュリティについて	タブレットＰＣ/動画
	２（本時）	情報発信ＳＮＳについて	タブレットＰＣ

☆授業者の思い

『安全教育の必要性』

附属池田小学校では、平成 13 年６月８日に８名の児童の尊い命が奪われ、13 名の児童と２名の教職員が負傷させられるという痛ましい事件が起こった。事件直後から、不審者対応訓練を行い、先輩方が知恵を出し合い作ってきたものを今なお継承し続けている。しかし、この訓練だけでは、子供たちの命を守ることはできない。子供の命が危険にさらされる場合は、不審者の侵入だけではなく、自然災害や交通事故によるものもある。子供たち自身が自分の命を守るスキルを身につけるために、どのようなリスクがあるのかを知り、どのように行動することが大切なのかを考えることが重要である。

大阪教育大学附属池田小学校　安全教育カリキュラム

☑ ☑1 年生 ☑2 年生 ☑3 年生 ☑4 年生 ☑5 年生 ☑6 年生

☑ ☑災害安全 ☑生活安全 ☑交通安全 ☑情報モラル ☑安全科 ☑他教科領域

1 年生　歩行者 1　4 月
交通事故の現状
・小学生が歩行者として被害を受ける交通事故の多さを知る。
・小学生の事故が多い理由を考える。
・通学時の様子を交流し、潜在的な危険に気づく。

春に交通安全教室で、安全な歩き方を実体験しながら学習している。加えて、交通事故の現状を知ることは、より安全に歩く意識を高めるものと考える。歩行者の事故の中でも、小学生が関わるものは著しく多い。特に通学時間帯である。資料から小学生の事故が多い理由を考えることで、1年生なりに自分の通学のしかたを見直してほしい。

1 年生　歩行者 2　4 月
事故が起きやすい場所
・資料から、事故が起きやすい場所を読み取る。
・事故が起きやすい理由を考え、事故を起こさないためにどのような歩き方をすべきか具体的に考える。

資料から、事故が起きやすい場所を読み取り、実生活へと結びつけていく。事故が起きやすい理由を考えることで、その場所で気を付けなければいけないことが見えてくる。事故は大けがにつながる大変なものだということを理解させ、周りを見て歩く、おしゃべりに夢中にならないなど、普段の歩き方を振り返って、今後の改善方法を具体的に考えさせる。

1 年生　校内安全 1　5 月
校舎内の歩き方
・校舎内の歩き方のルールについて知る。
・ルールが安心・安全につながることを知る。

それぞれの家庭にルールがあるように、学校にもさまざまなルールがあることを知らせる。ろう下、階段の歩き方などのルールにもそれぞれ

附属池田小学校の安全教育は平成 19 年から始まった。平成 21 年２月 23 日には教育課程特例校の指定を受け、全学年で週１時間それまでに積み重ねてきた実践をもとした「安全科」の授業を始めた。しかし、防犯に主眼をおいた「安全科」のカリキュラムでは対応できない事態が起こった。そのきっかけは、東日本大震災広島市の土砂災害・御嶽山の噴火などである。附属池田小学校の安全カリキュラムはあらゆる危険から命を守るために、各教科・領域との関連性を重要視して作り直された。年間 15 時間でできる安全教育。学年の系統性を明らかにし、４つのカテゴリー（生活安全・交通安全・災害安全・情報モラル）にまとめた。

（参照ＵＲＬ　http://www.ikeda-e.oku.ed.jp/anzen/）

将来、どの地域で生活するかわからない子供たち。その地域ごとに命をおびやかすリスクは違っている。だからこそさまざまなリスクについて安全教育のなかで学ぶことが必要なのである。

５年生　安全科

６．本時の目標

情報発信を行うことができるＳＮＳについて知る活動を通して、どのように利用することが安全・安心につながるのかを考えることができる。

７．本時の展開

ICT 活用

いくつかの情報発信ＳＮＳについて電子黒板に投影していくことで、興味関心を引き出す。

事例に対する自分の価値観を３観点によるレーダーチャートに打ち込む。『レーダー』を用いて、全員のレーダーチャートを映し出すことができる。

学びの蓄積をまなふりくんに打ち込む。自分が残しておきたいと思ったものを自由に書きこませる。

児童の学習活動

１．情報発信としてのＳＮＳについて知る。

「見たり聞いたりしたことがあります。」
「使ったことはないけど。」
「使ってみたいなあ。楽しそう。」

２．発信の方法、手段について効果的なところ、安全ではないところなどについて考える。

「手軽に投稿できる方法があるんだね。」
「ＳＮＳは情報を受け取るだけじゃない」

３．情報発信について、３つの観点を使って分析シートに打ち込みその理由を考える。

「あまり危険を感じないよ。」
「自分の個人情報が拡散されていくよ。」
「自分のやってみたいという気持ちはとても理解できますが…。」

４．情報発信に対する自分の価値観を明らかにして、仲間と交流する。

「自分のことを知ってもらいたい気持ちはよくわかりました。」
「顔や名前が特定されるような投稿は危険だから、今はしない方がいい。」
「歯止めが利かなくなることがないように保護者との約束が必要だと思う。」

指導上の留意点

自己顕示欲が高まる年齢ということを受容しつつ、発信の安全性を担保するためにどのようにするべきかという思考に向かわせる。

情報発信の事例、それによる事件などを知ることで、情報発信に対する価値観をメタ認知させる。

テレビ画面に映した各自のレーダーチャートを用いながら話し合わせることで、仲間の考え、価値観を共有させる。

評価：情報発信に対して安全性を確保したうえで、どのように利用していくかを考えることができる。　【思考・判断・表現】

５．学びのふりかえりをする。

「発信者として大切なことがわかった。」